

芽生え

（京都地区五十年を）

ふりかえつてし

今から五十年前の京都教区を知つてい
る人がどの位おられるであろうか。古屋

司教様ほどその当時の事を知つておられ
る方はおられないのではないだろうか。

私達編集部は「京都教区時報」の復刊
を契機として、古屋司教様の現役時代の
思い出、エピソード等を同いながら、京
都教区の歴史をふりかえり、この「芽生
え」が明日の京都教区の歩みへの第一歩
になればと願う次第である。

この文章は編集部が司教様の談話を責
任をもつてまとめたものである。



私が司祭に叙階されたのは昭和三年七
月一日神戸の下山手教会でカスターニエ司
教様からでした。叙階後、すぐ大阪の玉
造教会に赴任し長田神父様を助けながら
六年間働きました。当時は求道者も多く
一緒に勉強して洗礼を受けた人は六年間
に五十数名に及びます。

昭和九年三月付で私は大阪より京都の
河原町教会に移り、バリミッション会のシス
ウット師の助任として働くことになりました。
した。当時は京都も各県に一つ位しかなく
なつておりバリミッション会の司祭達に
よつて司牧されていました。日本人司祭
は私一人で教会も各県に一つ位しかなく
京都市内にも河原町教会と西陣に家を借
りて、集会所としていたものだけでした。

この文章は編集部が司教様の談話を責
任をもつてまとめたものである。

そんな時、メリノール宣教会が京都、
滋賀の布教をバチカンからまかせられる
ことになったのです。ところが丁度そ
のころ満州事変、支那事変が勃発し、アメ
リカとの関係も次第に悪化しつつあり、
その様な事態の時にアメリカ人司祭がや
ってくることにつき不安を感じた京都

の信者達は、反対の署名運動を始めまし
た。それでやむを得ず、メリノール会の
司祭達は滋賀から宣教活動を開始したの
です。まず瀬田にあるさざなみ別荘とそ
れから彦根にも家を買いつこに住むこと
になりました。そして機会があれば京都
で布教したいとの「時」の来るのを待

対しています。こんなに親切で暖かい人
に反対するのはおかしいと思いませんか」
婦人達も私のことはござつて賛成して
くれました。こんな風にしてバーン師は
京都に入ることができたのです。そして

河原町教会の主任だったウッド師は大阪
に移り、バーン師は河原町教会の主任と
なり私は彼の助任司祭として引き続き河
原町教会に住むことになりました。この
様にして京都南部と滋賀地区はメリノ
ール会にその宣教がまかせられることにな
りました。ただ舞鶴、宮津等の京都府北
部は軍港があつたためもあり、大阪教区
にまかされました。メリノール会が最初
に建てた教会は高野教会で、その後大津
教会や草津病院も建つ等、その宣教活動

古屋司教様の京都教区の昔話には熱がこ
こなれていました。柔軟で落ちついた、
優しさにあふれたバーン師の雰囲気は今
まで私が持っていたアメリカ人に対する
印象と随分違うものでした。私はその人
柄にすっかり惚れ込み、丁度そこに居合
わせた婦人達にバーン師を紹介して言
いました。「この神父様は京都でキリスト教
を伝道するために働きたいと望んでおら
れます。でも多くの京都の信者達は、ア
メリカ人の宣教師が京都に入ることに反
対しています。こんなに親切で暖かい人
に反対するのはおかしいと思いませんか」
婦人達も私のことはござつて賛成して
くれました。こんな風にしてバーン師は
京都に入ることができたのです。そして

河原町教会の主任だったウッド師は大阪
に移り、バーン師は河原町教会の主任と
なり私は彼の助任司祭として引き続き河
原町教会に住むことになりました。この
様にして京都南部と滋賀地区はメリノ
ール会にその宣教がまかせられることにな
りました。ただ舞鶴、宮津等の京都府北
部は軍港があつたためもあり、大阪教区
にまかされました。メリノール会が最初
に建てた教会は高野教会で、その後大津
教会や草津病院も建つ等、その宣教活動

バーン師の印象は昨日の事のように私の頭に
焼きついています。柔軟で落ちついた、
優しさにあふれたバーン師の雰囲気は今
まで私が持っていたアメリカ人に対する
印象と随分違うものでした。私はその人
柄にすっかり惚れ込み、丁度そこに居合
わせた婦人達にバーン師を紹介して言
いました。「この神父様は京都でキリスト教
を伝道するために働きたいと望んでおら
れます。でも多くの京都の信者達は、ア
メリカ人の宣教師が京都に入ることに反
対しています。こんなに親切で暖かい人
に反対するのはおかしいと思いませんか」
婦人達も私のことはござつて賛成して
くれました。こんな風にしてバーン師は
京都に入ることができたのです。そして

河原町教会の主任だったウッド師は大阪
に移り、バーン師は河原町教会の主任と
なり私は彼の助任司祭として引き続き河
原町教会に住むことになりました。この
様にして京都南部と滋賀地区はメリノ
ール会にその宣教がまかせられることにな
りました。ただ舞鶴、宮津等の京都府北
部は軍港があつたためもあり、大阪教区
にまかされました。メリノール会が最初
に建てた教会は高野教会で、その後大津
教会や草津病院も建つ等、その宣教活動

自分も結構若いつもりでいたのにどうや
ら司教様の方がもつとお若いようである。
記事が片寄つたりしていいのかとても心
配だ。（KN）



(編集後記)

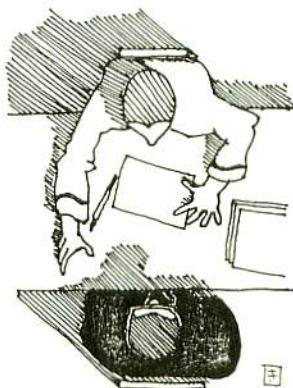
時報が対
話の手段な
く者も読む
らば「互い
に心を開け
あおう」書
者も編集者
も。

開心の意味

茅生元

一京都教区五十年を振り返って

右座義文



国

戦争前夜、軍部の圧力はすでに宗教団体にも加わっていました。例えばプロテスタント教会が、教團として認可され活動するため、三十三宗派が集まって、「日本キリスト教団」を作ったのもそのためです。

カトリック教会でも当時修道会の長は、フランス、カナダ、スペイン等すべて外国人宣教師で、司教も日本人は土井東京大司教と山口長崎司教の二人だけでした。私が私も三十九才の若さで京都教区長に任命されました。

太平洋戦争の勃発は、教会にも、外国人司祭にも、また私にも大きな試練でした。メリノール会の司祭もほとんどが追放となり、当時、京都に残った外国人はバーン師と同志社大学のデンドン女史だけでした。バーン師は高野教会で軟禁状態にあり、誰にも会えない生活を送っていました。私は夜遅く、持高の眼を盗んで差し入れを持つて行つたりしたものです。

私の取り調べは、開戦の翌日十二月九日に早速ありました。朝、憲兵が来て

運行されました。所持品を調べられた後長く待たされ、やっと取り調べが始まりました。私を尋問した准尉は物腰の柔らかな人で、他の軍人のような威圧的な態度ではありませんでした。この人には忘れ難い思い出があり、この人の一言が、戦争時代の迫害に對して、私への大きな励ましとなりました。その取り調べの時、

その他、教会もやはり監視されていたようです。信者たちは、大津教会の人たちが取り調べを受けたようなことを聞きましたが、特に軍部からの監視があつたわけではないでしょう。でも日常生活では、敵国の宗教を信じているということは、敵國の宗教を信じているということは大変だったかもしれません。それに、伏見と彦根教会、瀬田のざざなみ荘が不審火で焼けたのもこの頃でした。

このようにして戦争時代は苦難の時代でした。そんな中で、昭和二十年八月十五日終戦を迎え、敗戦の悲しみと信仰の自由が与えられる喜びの内に、新しい時代へと移していくわけです。しかし、それから教会の歩みも、決して楽なものではありませんでした。

つづく

(題字も古屋司教)

トを信じていない一人の准尉から教えられたことを、しおりと心に刻みました。

しかし、取り調べがいつも、こんな「感動的」なものであつたわけではありません。むしろ、敵意と偏見に満ちたものでした。敵国の宗教だというので、スペインも扱いを受けていたのです。説教集も沢山あったのですが、書類は皆、検閲を受けるので書かなくなりました。もとと馬鹿しかったのは写真の検閲でした。例えは、東京神学校の火事の写真を持つていたら、空襲にやられている写真をアメリカに送るのだろうと云われたり、今から考えれば、笑い話のようなものも沢山あります。

◆タイトルをつけるのも問題。司祭銀婚式?と書こうと笑われる。でも眞面目に司祭は教会と結婚したと云う神秘家もあるのですぞ。慣れたのか前より能率的に編集完了。「なれ」が「だれ」にならぬよう頑張りたいと思う。(M・T)

◆コンチキチンのうちにこちら編集もチン。互いに大いにハッスルしながらもM師を中心し笑いの絶えない編集共同体。主のくびきは負いやすく主の荷は軽い(Y)

◆夏の雲がおいしそうに青空を食べています。ボクはスイカを食べ、枝豆と冷奴でビールを飲みます。夏は山へ海へと楽しい季節です。そして、この時報も楽しいものになればと思います。(亜)

◆原稿を読み乍らぶつゝと一人言のM神父。聞いていると笑えて笑えて、これでは全く仕事にならない。原稿の山と格闘している間に梅雨あけ宣言。電話の彼方では歯切れのよい浅田節。(K・N)

◆夏休みとはいえキャンプ、研修会と教会っ子は忙しい。でもそれぞれの場でキリストとの新鮮な出会いがあれば願う。51号では夏休み特集を計画しています。傑作な写真を添えてあなたの夏休みのリポートを九月五日までお送り下さい(O)

時報が対話
の手段なら
ば「互いに
も、投稿
心を開けあ
も編集者も。

生え
(三)

—京都教区五十年をふり返って

右座義之

昭和二十年八月十五日、この日私は、河原町教会で聖母被昇天の大祝日のミサをささやかに信者の人達と捧げてました。ミサの後、皆でお茶を飲んでいるとラジオで重大な放送があると知らされました。それは天皇陛下によつて発表された日本敗戦の玉音放送でした。私は敗戦という言葉に打ちのめされそうな打撃を受けると共に、これからは何の束縛もなくキリスト教の信仰を守り、キリストを宣べ伝えることができるという何ともいえぬ自由と解放感に浸つたことも事実です。

終戦と共に米軍が進駐してくることになり、日本国中その事に対して非常な恐れを持ち、特に満州事変の経験からいろいろなうわさがうわさを呼んで広がつていきました。そして町にそのまま残れば米軍の兵隊から何をされるかわからないと思いつめた京都の人々は、山村に逃れようとヤカーヤ乳母車にまで家財道具を満載して京都を後にしました。この様な人々が毎日街頭いっぱいに避難民のように行きかうのでした。又若い婦人達はいざという場合に備えて青酸カリを肌身はなさず持つようにしていました。この様な混乱を目があたりにして、東京



昭和20年8月20日付朝日新聞

る人と確信していたので、さつそく記者をバーン師のもとに連れて行きました。

バーン師は、このむずかしい役目をすぐ引き受けてくれました。そして疎開する人でごつた返してくる満員列車に乗つて東京に向つたのでした。

バーン師はラジオ中継で全国民にむかつて、「アメリカ人でありカトリック司

教である私は進駐してくる将兵の名にお

いて、あなた方日本人に恐れる必要のない事を保障します。」との内容の名演説をしました。又米軍の兵士にむかつても同様「アメリカの名誉を汚すような行為を日本國土で絶対しないように。立派な軍隊として上陸するように」とラジオ放送をしました。このバーン師の勇気ある行動は朝日新聞のトップ記事として掲載され、不安と失望のどん底にあつた日本国民に明かるい希望を与えることとなりました。そして米軍の京都、大阪への進駐は何も武装しないで入り平和的に行われていきました。バーン師はその後高野バーン師をその記者に紹介するようたのみました。私もバーン師こそアメリカ人の中でも日本人を最も良く理解してくれました。そして米軍の京都、大阪への進駐は何も武装しないで入り平和的に行われていきました。バーン師はその後高野教会に移られましたが、その後ローマヨリ命じられ朝鮮の教皇使節として行かれ、韓国でその聖なる生涯を閉じられました。バーン師は私にとっては勿論、日本国民にとっても忘ることのできない大恩人なのです。

戦時中の食料不足も終戦と共に少しずつ緩和され、米軍が救援物資を飛行機から落としてくれたりしました。またドミニコ会のブリオット神父様からいただいた外国製のたばこの味は今も忘れられません。ラール、フリップ、モーリスといふたばこの名前を今もはつきり覚えています。心ゆくまでたばこの味をわいながら、これからはカトリック教会が一致して日本の再建のために働くねばならないとの使命感に燃え立たされたのでした。

(つづく)

訂正とお詫び

編集部七人眼鏡もいれて二十の目で見直しているのですが誤字誤植が前号にありましたので気付きました限り訂正しろと申しあげます。

一頁 施設長Rサーン師—ザーン師
四頁 九教教会—九条教会

五頁 広報 村上(興師)—村上(國師)

信徒使徒職 松本(透師)—村上(興師)
青少年司牧 松本(透師)—松本(秀師)



時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
は「互いに
も、投稿者
心を開け
も編集者も。

芽

生え (四)

古屋義元

—京都教区五十年を振り返って

クリスマスが近付くと、私は終戦後初めてのクリスマスを思い出します。もちろん、今のようなクリスマス・パーティがでできるわけでもなく、子供たちへのプレゼントもありませんでした。ところが、進駐軍の兵士たちが思わずクリスマス・プレゼントを届けてくれたのです。

米軍が京都に進駐するようになって、河原町教会は、その兵士たちのためにミサを献げる教会に指定されました。それで日曜日には沢山の兵士たちがミサにあづかりました。そのときには、戦争の勝ち負けも関係なく、共にキリストを信じる者としての喜びを感じるのでした。

進駐軍からのクリスマス・プレゼントというものは、いくつもの箱に積められたチョコレートでした。兵士たちが、自分たちの分を食べずに集めてくれたものだそうで、相当な数でした。子供たちは大喜びでしたし、私もこんな素敵なかんばりを子供たちにあげることができたのをうれしく思いました。ロクな食べ物もなかつたあの頃、子供たちにとってチョコレートの甘さは天上のものだったかも知れません。

その頃のエピソードに忘れないものがあります。上職学校を始めてからも

時々進駐軍から差し入れがあり、子供たちにアメなどをあげていました。アメをもらつた子供たちは、ほとんどその場で食べずに家へ持つて帰つていたようです。そんなある日、婦人が私が訪ねられ、一つのアメを家族が分け合つて食べたが、本当に美味しかったとお礼を言われるのです。それを聞いて私もうれしく、小さなアメでさえ人々に喜びをもたらすことができました。



河原町教会は、何重にも人の行列が取り巻き、その数は二千人近くもので、アメリカから軍艦に乗せられた。又、アメリカから軍艦に乗せられて、衣類なども送られてきました。これをスタインバーグ師は、上職学校に来ている子供たちや、本当に不自由している人にあげました。そのことでちょっとしたエピソードがあるのですが、ある神父が師にその衣類を親戚の子供のために少し分けて欲しいと頼んだところ、師は、これは貧しい人のためだと断りました。決して、その神父の親戚が金持ちだったわけではなく、教会の内部の者に横流しづけることを良しとされなかつたのです。

このように敗戦によつて荒廃した岡上、人々の生活や精神は、人々に立ち直つていきました。それは確かに一人や二人の手で行われたことではなく、スタインバーグ師の活動も、ウイチタの聖ヨゼフのシスターと青年たちの協力が大きな力になつたことでしょう。そして、どんなときにも、私たちを一致させてくださる

ができるのだ、と痛感しました。物質にあふれている現在では、忘れられていくものがあの時にはあつたのです。

も大したものでした。例えは精華町から

野菜などを仕入れ、それを人々に配はり

ました。最初は、胡散臭く思つていた精

華町の村長や農協の人たちも、師の良心的なのを見ている協力してくれまし

た。当時は食料を買い占めて私腹を肥

や士者がいたので、最初は信用してもら

えなかつたのです。それで、野菜が届く

日には、河原町教会を何重にも人の行列

が取り巻き、その数は二千人近くもので

した。又、アメリカから軍艦に乗せられ

て、衣類なども送られてきました。これ

をスタインバーグ師は、上職学校に来て

いる子供たちや、本当に不自由している

人にあげました。そのことでちょっとし

たエピソードがあるのですが、ある神父

が師にその衣類を親戚の子供のために少

し分けて欲しいと頼んだところ、師は、

これは貧しい人のためだと断りました。

決して、その神父の親戚が金持ちだった

わけではなく、教会の内部の者に横流

しづけることを良しとされなかつたので

しょう。

お知らせ

◎聖書週間・聖書講議会(第二回)

日時 十二月三日① 午後五時一八時

場所 河原町カトリック会館六階

講師 三好連神父(南山大学聖書学教授)

テーマ 「原始キリスト教会の復活信仰」

主催 京都カトリック学生連盟

○講演会

日時 一九七八年一月十五日⑪

場所 午後二時五時

指導者 河原町カトリック正義と平和京都協議会

講師 相馬信夫司教

テーマ 「キリストと歩こう」

日時 十二月九日⑩一十一日⑫

場所 唐崎メリノールハウス

○個人指導による祈りの体験

日時 一月九日⑩一十一日⑫

場所 唐崎メリノールハウス

○個人指導による祈りの体験



時報が対話

おう 書く

の手段なら

者も読む者

ば「互いに

も、投稿者

心を開けあ

も編集者も。

◆教区時報のスタッフの一人シスター米屋が四ヶ月の予定で米国に出発します。

編集部の大蔵省兼取り締り役兼……等

大黒柱が抜けて淋しい限り、早く帰つて

来てね！おみやげもお忘れなく(全員)

◆大黒柱などと滅相な！クリスマス号編

集を目前に抜け出し心の中だけは妻揚子

ほどに身も細る思い。何はどうあれ皆様

よいクリスマス新年をお迎え下さい。(Y)

芽

生え

(五)

古屋義元

—京都教区五十年を振り返って

戦中、戦後にできた教会の諸施設についても様々なエピソードがあります。

話は少し前後するかも知れませんが、草津病院には想い出があります。この病院はバーン師によつて建てられ、当初はメリノールのシスターに経営を任す予定でしたが、結局、訪問童貞会（現在の聖母訪問会）に任せられることになりました。

戦争が激しくなるにしたがつて、そのような大きな建物を病院にしておくのは勿体ないとのことで、軍需工場に譲渡するよう申し込みがありました。そのため滋賀県庁の特高課から海軍中佐をはじめ、特高課長、憲兵などが司教館までやつて来ました。彼らは私と顔を合わせるや否や、「軍に協力するかしないか、一言で答えよ。」と迫つてきます。そのとき私は、「はい」と言えば病院を没収されるし、「いいえ」と言えば國旗扱いされるだろうし、板挟みとなつて困りました。しかし、咄嗟にこんな返事ができたのです。

「今時、そんなことを尋ねるのは失礼なことです。でも協力の仕方にもいろいろある筈です。病院として業務を続け、傷痍軍人を受け入れるのも大切なことでしょう。だから軍需工場にすることは反対です。

対です。」

その言葉に彼らも押されてしまつたのか、「そのような強い信念でやつてもらおうのなら。」と引き下がりました。その応対をふりかえると、私は「聖靈の導きによつて語ることができる」という聖書の言葉を思い出します。

それに唐崎メリノールハウスに関して



草津病院

い値は市価よりもむしろ安いもので、どうせ手放さなくてはならないのなら少しでも高くと思い、土地ブローカーに売ることにしました。ところが、その情報が軍に入つたらしく、明日契約という時に軍から差し止めを受け、結局軍に売るになりました。ブローカーが買い取るだけの金が払えないと言うので、それならその差額を寄付するから感謝状を書いてほしいと言いました。確かに立派な感謝状を持って来ましたが、それに知事の印がなく勝手に作ったものだったのでしょうか。

終戦になつてからGHQが調査し、その土地を返してくれることになりました。でも、県庁では、その土地は金がないというから買いあげてやつたのだ、と言いつります。こちらは、もちろん売る意志などなかつたので、金もそのまま銀行に預けてあり、それを見せるところの主張が通りました。そのため返還するよう命令があり、手続をして教会に戻つてきました。

こんな問題が起つても、私は何もごまかしていないので、正々堂々と主張することができました。それに、教会のことを思つていたので、何でもはつきり言つました。

◆クリスマスボケ、正月ボケ、一向のしつかり手綱をしめておかないと、どこへ走り出すやら見当もつかぬ事になつては困ります。急がず、騒がずあせらず落着いて、但し時と云うバスに乗り遅れない様にしたいものです。エヘンならず、ヒヒン、馬も納得したのでしょうか。(M.T.)



時報が対話
の手段なら
ば「互いに
心を開けあ
る」書く
者も読む者
も、投稿者
も編集者も。

◆水晶のような空気が山を美しく見せます。山々も薄化粧をしたり、厚化粧をしたり忙しいようです。冬は雪の子供たちも人も人間の子供たちも大はしゃぎ。首をコートに埋めているようでは、もう若くはないのでしょうか。新しい年、大切にしたいですね。(ア)

も、こんな話があります。これもバーン師が買入れたものですが、新しい家を建ててはいけないというので、古い家や土蔵を修理して住めるようにしました。しかし、アメリカと戦争が始まると、軍が「敵産」だから分けてくれるように言つてきました。将校の子弟たちを教育するために使いたいとのことです。その買

◆福寿草、しあわせをことばぐ花。道端でひつそりと黄色のつぼみを開き外界の寒さを同つて。倒産、自殺、殺人、物騒な昨今にもう一度しあわせとはど考えてみる。寒さもひとしおの二月(〇)

(訂正)前号の一頁上段ノートルダム女学院の徳目「徳と和」を「徳と知」に訂正いたします。

芽生元

(六)

一京都教区五十年を振り返って

古屋義之

戦後の喧擾とした時期も次第に落ち着きを取りもどし、国の再建はまず教育問題から始まりました。占領軍は日本のこれから教育に関する方針を公けに発表した中で、これから日本の教育は男女共学すべきだという事がうたわれてありました。今まで「男女七才にして席を同じゅうせず」と長い間男女別学の教育だった日本がはたして男女共学をスムースに受け入れができるかどうかは、大きな疑問でした。そしてこのことについては有識者は勿論、巷でも共学論議に花が咲いたことでした。

そんなある日、京都の木屋町で教育問題についての話があるという事で、私も出席するように呼ばれました。行ってみると、教育関係者、新聞関係者等四十名程集まつており、戦後の日本の教育をどうすべきかを話し合っていたのでした。勿論男女共学についても話が及びます。しかしこれといった確信のある意見はないようです。私をこの会に招待した方が「古屋さんはどんなお考えですか。カトリックとしてどんな方針をおもちですか」と私に矛先を向けてきました。私は個人的な意見であると前置きして申しました。

「男女共学をすべしと軍が発表したのは絶対的ものではないと思う。今までの

日本の習慣であった男女別学から突然共学にするのは無理なよう気がする。幼小、そして大学は共学で良いが思春期に入る中高校生も共学にするはどうだろうか。すべての教育の時期を共学にするのは賛成できない。」

次の日の朝、新聞を見ると昨日の教育集会の記事がさっそく掲っており、驚いたことには多くの人が発言したにもかか



（左二人物）古屋司教（内）神父（右二人物）古屋司教（内）頃マキロップ（内）

日本習慣では、男女別学から突然共学にするのは無理なよう気がする。幼少、そして大学は共学で良いが思春期に入る中高校生も共学にするはどうだろうか。すべての教育の時期を共学にするのは賛成できない。

日本でも男女別学の学校も多くなり、それぞれ特色をもつて教育しているからしますと、教育関係者、新聞関係者等四十名程集まつており、戦後の日本の教育をどうすべきかを話し合っていたのでした。勿論男女共学についても話が及びます。しかしこれといった確信のある意見はないようです。私をこの会に招待した方が「古屋さんはどんなお考えですか。カトリックとしてどんな方針をおもちですか」と私に矛先を向けてきました。私は個人的な意見であると前置きして申しました。

「古屋さんはどんなお考えですか。私は、今朝の新聞を見て驚きました。あなたは軍の占領目的に反抗するのですか、あなたの発言は法

令第〇〇条に反しています。すぐ府庁まで出頭して下さい。その電話で通訳を通じて話しているのはケイズという文官で、非常に厳しい人で、皆イケズ、イケズと呼ばれ恐れられました。私も普通に出頭したのは負けてしまうと思い、メリノール会のマッキーロブ神父様と一緒に

つづく

に付いてきてくれるよう頼みました。神父様は快く引き受けてくれ私と一緒に府庁のケイズ氏の部屋に入りました。ケイズ氏は、私がローマンカリーの大きな身体のアメリカ人と一緒にいるので少々驚いたらしく隣の部屋から陸軍の軍服をつけた少佐を応援に連れて来て、二対二で話し合いを始めました。

ケイズ氏がまず最初に口火を切りました。「私は米国合衆国のお名においてこれら話します。私も負けじと、私、古屋司教は個人の名においてではなく、カトリックの名において話します。」と宣言し話しあいが始まりました。その後はすべてマッキーロブ師にまかせた形にあり、米国でも男女別学の学校も多くなり、それぞれ特色をもつて教育しているからです。それを共学にする必要はないことを力説し、長時間の話し合いの結果こちらの意見を聞き入れてくれ法令違反という汚名を受けることなく終ったのは幸いでした。後でマッキーロブ師は、「もしどうしても共

（訂正とおわび）前号の「同和問題を考える」の筆者の井上新二氏が新三になつていましたので訂正いたします。



時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
は「互いに
も、投稿者
心を開けあ
も編集者も。

（訂正とおわび）前号の「同和問題を考える」の筆者の井上新二氏が新三になつていましたので訂正いたします。

（O）
●私について来たかつたら、十字架を取つて、これは主の言葉です。「それは出来ません。やっぱり四頁もふやしたのが過重労働の原因か。でも復活祭でもあることだしサービスしましょう。」

（M）
（訂正とおわび）前号の「同和問題を考える」の筆者の井上新二氏が新三になつていましたので訂正いたします。

葵
生
え

(七)

一京都教区五十年をふり返って

右座義元

新しい日本を築くために、経済的な復興も大切なことでしたが、それと共に次代を背負う子供たちに相応しい教育がより必要なことだと私は考えていました。

それが、前号でお話した教育集会を契機に、私の教育に対する熱意も具体化していくのです。京都教区にもカトリック系の学校を作りたい、それも男女別学でそれぞれの特性が伸ばせるような学校をと構想を練っていました。そんなとき私の力となってくれたのは、教育集会のトラブルのとき、私と共に府庁まで出向いてくれたマキロップ神父様でした。神父様は、ノートルダム教育修道女会と聖ヴィアトール修道会に京都での学校教育を依頼してくれました。両修道会は幾多の困難を顧みず、この事業を引き受けくれたのです。

ノートルダム女学院が創立された経緯を少しお話すると、アメリカからシスターが京都に来たのが昭和二十三年のことです。日本語も話せず、西も東もわからぬシスターたちの苦労は大変なものだつたでしょう。それでも、多くの人たちの協力にささえられ、昭和二十七年四月に中学校がまず設立されました。昨年はちょうど創立二十五周年にあたり、盛大

なお祝いが行れました。最初の生徒数が百名程であったのに、会場を埋め尽した茶色の制服を見て、私の感慨もひとしおでした。



聖母学院

洛星中・高等学校も昨年、二十五周年を迎えた。こうして四半世紀の歩みでした。京都に作る必要はない、と待ったがかかるここに病院を建てる予定で、厚生省の認可も取っていました。しかし、京都の医師会から、そんな大きな医療施設をもう京都に作る必要はない、と待ったがかかるここに病院を建てる予定で、厚生省の認可も取っていました。しかし、京都の医

会やマキロップ神父様の努力によって、私の教育事業の構想も実現していきました。学校と共に、終戦後できたものに聖ヨゼフ修道女会によつて作られたものですが、建設されるまでに糾余曲折がありました。と言うのは、当初ヨゼフ会はここに病院を建てる予定で、厚生省の認可も取っていました。しかし、京都の医師会から、そんな大きな医療施設をもう京都に作る必要はない、と待ったがかかるここに病院を建てる予定で、厚生省の認可も取っていました。しかし、京都の医

会はすでに土地も購入しており、その対処に困っていたのですが、良い解決案が見つかりました。当時は、社会福祉の問題がやつと取りあげられるようになつた頃でした。それで、総合病院を作るのが駄目なら、肢体不自由児のための施設を作つたらどうかということになつたのです。これには医師会の反対もなく、それどころか、京都府から援助がありました。今から考えると、この案はいろんな面で成功だったと思います。それは多くの方へ導いてくださる神の摂理だったのです。

◆母の心、父の心、昔は愛の代名詞になつたのに、今はどうなつてるのであります。五月、六月、その祝日に昔に戻れどろこか、京都府から援助がありました。今から考えると、この案はいろんな面で成功だったと思います。それは多くの方へ導いてくださる神の摂理だったのです。

(Y)

◆五月は實に会議の多い月です。私には編集会議が会議ではなくバラバラの話の積み重ねのような気がしました。忙がしいという事は心を亡くすることだそうですね。

(M)

◆堀られそこなつた筈の根元の皮の間から触れる指も染まりそうな縁がござります。『6月号編集終り』の一節がきまつて心も何だかのびたような感じ。

(O)

(Y)

◆五月は實に会議の多い月です。私には編集会議が会議ではなくバラバラの話の積み重ねのような気がしました。忙がしいという事は心を亡くすることだそうですね。

(Y)

◆社会福祉事業を通して、福音が宣べ伝えられ、実践されるようになったのです。

(Y)

◆お願い——編集部への希望、忠告、意見、などがありましたら、御遠慮なくお聞かせ下さい。(Y)



時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
ば互いに
心を開けあ
も編集者も。

芽

一生元 (八)

右座義文

—京都教区五十年を振り返って

戦後人々のキリスト教に対する目は大きく変わり、この宗教について知りたいと望む人が非常に多くなり、私も種々の団体から講演を頼まれました。ある時は中立壳の警察で大勢の警官を前にキリスト教を紹介しました。この時は戦時中、役目柄しかたがなかつたのでしようが、警官からはずいぶん虐待されたことを思ひ出し、世の中は変わるものだとつくづく考えさせられたものです。警察といえば戦時中こんなことがありました。当时河原町教会は外国人宣教師達の抑留所となつており、数名の警官が厳重に見張つており、誰も入れないよう縄まで張りめぐらせてありました。賄いのおばさんが食事一切の世話をしており、そのお嬢さんも時々手伝いに来っていました。

ある時見張りの中でも一番うるさくて堅苦しい私の大嫌いだった警部補のAさんが私を呼び出してこういっています。「あの賄いの娘さんがとても気に入ったのでぜひ結婚したい。何とかしてほしい」私はびっくりしてしまいました。しかし神様の働きをきえぎることはできませんでした。高野教会のバーン師に頼み結婚式をあげてもらい、クリッキーとお茶できさやかなパーティをしたのでした。この警部

補は後警部に昇進、終戦後にはキリスト教の勉強をして洗礼を受け、現在は熱心な教会役員として活躍しています。人は見かけによらないとは、このようなことをいうのでしょうか。



さて当時現役の日本人司祭は私一人でした。出征した上田神父は無事帰り、又大連教区から岡神父が京都教区に移り働くことになり、丸山神父の叙階と京都教区は希望に満ちていました。ただ出征した森神父のフィリピン玉碎は残念でなりませんでした。

当時私は自転車に乗つて各教会を巡回していましたが、普通の自転車では間に合わなくなってしまい、思いあぐねた末自転車にモーターを取りつけました。お

かげでぐんとスピードアップし、宣教活動にこの自転車は欠くことのできないものとなりました。河原町教会の日曜のミサは米軍の関係者であふれる程の人で埋まり、このミサが終ると私は愛用の自転車に飛び乗つて京都御所をつつ切つて西陣教会へ飛び込みます。ここでミサを終えると次は小山、高野という風に日曜日は食事をする時間もなく、(当時は聖体拝領のため前夜の十二時から断食)飛び回っていました。今考へてもよく倒れなかつたものと思います。

このモーター付自転車では面白いことがありました。当時も車進入禁止の道がありましたが私は急いでいるあまり、その通りを走つていました。すると警官がやってきて「それはモーターがついてるのでここを走ることはできない」といいます。私は「いや、これはモーターの取りはずしができるので自転車なのです」といいますと警官は首をかしげて「そうですか……?」といつて、それでも通してくれました。又三条では自転車の通行禁止の時間に走つてしまつたら捕まります。私は「これはモーター付き自転車で軽自動車の一種です」といふと、警官は「そうかも知れませんね」と不審そうにしながらも許してくれました。聖霊がいわせたか、私の悪(?)知恵がいわせたかさだかではありませんがこんな風に息つくひまもない私の宣教時代でした。

一杯の水のおいしさ。一吹の風の快さそれが身にしみるこの頃。キリストも一杯を望まれているのですね。この最も小さな人としたところは即ち……一杯の水ください。一杯の水受け取つて下さいが枯れてしまわない様に。(MT)

宵山も間近。鉤は釘一つ使わず手作りの綱で固く結えて組立てられるとか、連絡員集会は「時報録」づくりの綱のように頼母しい共同体。猛暑の中にも心爽やか。(Y)

一冊の本が枯れかかった心をうるおしてくれる。ひとすじの道を歩き続ける人の後姿に、しつかりしなければと背伸びを止される思いがする。こんな出会いを待ち望みながら走りまわつてゐるのが現実だ。今年の夏に期待して……。(O)

◆風鈴の音が夢の世界に誘い込んでくれます。草すだれ、朝顔、金魚売りの声。昼夜から眼覚めれば、よく冷えた西瓜を食べ、蟬しぐれが夏を盛り立てます。でも、私たちももうそんな夏を失つたのかかもしれません。

◆拡大編集会議は教区のあちらこちらからいろいろなもの運んでいました。

「異色の共同体」が運んできたものをよかんで、味わつて、飲みこんだら私達も今度は、お土産をもつて訪問したいと思います。



時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
ば「互いに
も、投稿者
心を開け
も編集者も。

(題字も古屋司教)

(つづく)

思ひます。

(き)

京都教区時報

英

生え (九)

左座義文

—京都教区五十年を振り返って



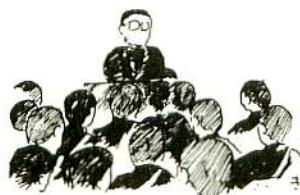
時報が対話
おう「書く
手段なら
者も読む者
ば「互いに
心を開けあ
も編集者も。

カトリックに関係のない若者達に話すのは良いチャンスと出かけました。十里の道を自転車で行くのは、大変でしたが、仲々楽しいものでした。ところがだいぶ行った所で前から材木を積んだ大型トラックをよけようとして、雨上がりの道に足を取られ自転車もとも倒れてしまい

身体をしこたま打ち伸びられました。そんな事故で予定の時間に相当遅れました。お坊さん達も十分話が聴けたと喜んでくれました。今考えて見ると、戦後初めてキリスト教体どんな風に話したら良いかと、とまどいながらも、キリスト教精神を伝える絶好なチャンスと思い承諾しました。

私の宣教時代で心に残っていることをと困るとのことで私は謝礼のことなど考へと、二、三つけ加わえましょう。
ある夏のこと、本願寺関係の全国のお坊さん達の研修会で講演を頼まれました。佛教の修練を積んでいるお坊さん達に一長して話してしまいました。お坊さん達も十分話が聴けたと喜んでくれました。

遠の生命という深遠な思想に触れることが当日会場に入ると大きな本堂に墨染の衣の年配のお坊さんたちが足を組んで、静かに私の話を待っているのです。聞いて見ると、この研修会は指導者達のものだということです。大勢の僧侶達を前に私は、神の存在、普遍性、永遠の生命について順々に説いていきました。夏の暑さなかにもかかわらず、誰も居眠りする人もなく、皆非常に熱心に、真剣にメモを取りながら聞くのでした。その熱意に押され私は時のたのも忘れており、気がつくともう約束の時間が過ぎています。



は、当時の人達、特に仏教の人達にとつては非常に耳新しいことで、しかも魅了された思想であったのでしょうか。

私の宣教は京都市内だけでなく、あのモーター付自転車ウイザーに乗って呼ばれる所にはどこにでも出かけました。ある時京都から十里程山奥に入った山国村の青年団から講演を頼まれました。當時

山の端が茜色と鳥羽色のコントラストを見せます。“黄昏”という言葉が似合うようになった夕暮時。北風もすいぶんといじわるになつてきました。今年もあとわずか。テントの中で迎えたこの年の幕明けから、実際にいろんなことがありました。

私が始めて教会に行つた日、クリスマス、牧師さんがみんなに赤いリングゴを下さった。戦後の物資不足の中時間が過ぎた後も、もつと話してくれと頼まれ、ぎきぎきする全身の痛みと戦いながら夜中の12時過ぎまで話し合いました。この研修会を機に北桑田郡の青年達は敗戦の日本を救うのはカトリックの教えしかないと言がまとまり、自分達でカトリックの研究会を始め、イエズス会とう名の青年団を結成するまで发展していきました。これが宇津、山国に教会が設立する基礎となつたのです。その後メソール会のバロン神父様がこの地域を司牧され、人々に福音を宣べながら、特に小学校を出たばかりの少女達を伝導婦として教育し、彼女達もその一幕で宣教に協力する等、カトリックは広く知られる様になり、後に園部教会が設立される（お断り）今回は“小教区の貞”を休ませていただきました。

つづく
（題字も古屋司教）

全国的に青年団活動が盛んになっており

芽生え元 (+)

特別寄稿—山国の元青年より

新井 敏夫

「芽生え」(九)の記事を読まれた、山国教会の新井敏雄氏より次のような文をいただいた。これは古屋司教の山国入りをより正確にかつ、なまなましくお伝えすることができ非常に興味あるものと思うのでここに掲載させていただきたい。

(編集部)

「村の優秀な中堅青年を選抜し、現段階における祖国民主主義の実践者であり、文化日本再建の推進力となり得る人材を養成する」という目的を持って昭和三十年十月三日から一週間の日程で、北桑田郡社会教育協会が主催した「農村青年秋季学校」が山国の方で開かれた。

会場は幽寂をもつて知られている常照

皇寺があつた。この朝、教区長さまは、地図を携えて河原町からボインターに乗られ、一路山国にむかわされた。長途40キロメートルの道短で、途中、笠、栗尾の七折れ八折れの峠があり、現在のように舗装されておらずガタガタの砂利道であつ

た。なれぬ道のこととて注意深く走行され、いたが、魔のカーブともいわれている笠峰の大カーブで石車に乗られ、車もろとも横転されて、手足に可なりの傷を負われたのである。

教区長様が会場に着かれた時は、余程のおつかれの様であつたが、青年の前に立たれた瞬間から傷の痛みもすっかり忘れたかのように持前の熱弁を手真似、足真似、ユーモアたっぷり印象的な講演さ

れ居並ぶ青年から万雷の拍手を受けられた。ある老人が青年に混つて一週間欠かさず講演を聞いていたようだ、その時の

様子を次の様に私に漏らしてくれた。

「一週間講演をいろいろ聞かせてもらつたが、古屋はあんほど、グッと私の胸に応えたよい話を聞いたことがない。ほんとうに上手に喋らはつたで！」

不幸にも峰で転ばれ、傷つかれた教区

長さんは、この時のことと強く印象に残つたとみえて（事実、眼下は、断崖絶壁で身のすくむ思いのする場所である）そ

れから後、山国に行かれる神父様方に対して、「山国に行くのでしたら、何時死んでもよいように痛悔の祈りやら一杯してから出発しなさいよ。」としばしばユーモアを飛ばせておられたと聞いている。

司教様が講演されたのは十月七日であった。この朝、教区長さまは、地図を携えて河原町からボインターに乗られ、一路山国にむかわされた。長途40キロメートルの道短で、途中、笠、栗尾の七折れ八折れの峠があり、現在のように舗装されておらずガタガタの砂利道であつ

た。聖ドミニコ修道会司祭、ヴェンサン・

マリ・プリオット師は、一昨年米母國カナダで病氣療養中であつたが、脳軟化症

のため去る十一月三十一日帰天。享年七十五才。

師は一九〇三年十月十五日カナダ、ケベックに生れ、オッタワ大神学院、英國オックスフォード大学を経て、一九三一年ベルギーで司祭叙階。

一九三三年（昭和八年）来日以来、仙台教区での宣教活動のかたわらカトリック雑誌「炬火」の編集長をつとめ、一九四〇年には京大文学部でインド哲学を研



ヴェンサン・
マリ・プリオット
師逝く



◆未の年とあらば黙々と常に主にならつて進みたい。国際児童年にあやかつて素直になりたい。もっと多くのきょうだいと手をつなぎたい。今年もよろしく（Y）

逆三角形の羊座は古来中国では天の国へ登る門。今年はブラックホール発見の可能性もあるとかないとか……。（き）

◆一句申し上げます。寒々やお、寒々や寒々や。何んです。これ？頭の方がお寒いのでは？心が寒いのでは？皆様暖い冬をお過し下さい。（MT）

◆冬枯れの木立ちが蒼空にふるえます。私たちには底冷えの寒さにふるえます。

何をするにも体の動きがにぶく、雪でも降ればと心のどこかがつぶやきます。でも今では雪合戦より、雪見酒の方がいいかもしません。

(ア)

◆長い原稿を縮めたり、短かい原稿を伸ばしたり編集部は四苦八苦！8枚の原稿を1枚に縮めたとえばつてはいる編集長最終原稿が只今到着！思わず万歳の歓声

外は冷たいこがらし、内はぽかぽか暖房と、ほのぼの編集部の面々です。(0)

時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
ば「互いに
も、投稿者
も編集者も。
心を開けあ

芽

生え(二)

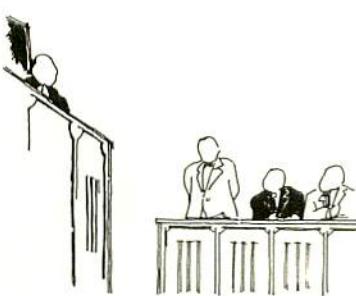
右座義元

—京都教区五十年を振り返って

誰も知らない私だけの苦労話も沢山あります。教区長として、思いがけない問題に巻き込まれたりもしました。そんな中からいくつか紹介しましょう。

お金のことで、ずいぶん呑気な想い出話が残っています。前にも話しましたが、戦争中、メリノール会の司祭で京都に留まつたのは、バーン師だけでした。邦人司祭も、私が孤軍奮闘していたときです。私もバーン師もお金がなく、困りはてました。毎年いくらかの補助がバチカンからでていましたが、私はその会計をブランザーに任せ、無一文という状態です。

それで私は、大阪のカスター工司教様のところへ、お金を借りに行くことにしました。私は子どもの頃から司教様に可愛がつていただき、また司教様に叙階していただいたので、親子のようなものでした。そんな関係から、司教様も心安く今の金額にして何百万円かを貸して下さいました。そのとき私は、司教様は太つ腹のことでもあるし、このお金はいただけののではないかと考えていたのです。でも、司教様は個人的な貸借ではなく、教区に貸すのだからと証文を書かれました。それでも私は、これは形だけのことで、もらつたものと安心(?)していました。



これが出てきたと言うのです。それは、まぎれもなくあのときの証文で、私はそんなことなどすっかり忘れていたのでびっくりしました。でも、お金を返すにもどうもしくなつた。でも、バチカンからの補助が来

そして、戦争が終る前にカスター工司教様はお亡くなりになり、これで私に借金の請求に来る人はなくなつたと思って、神に感謝!を唱えました。

ところが、終戦後、神戸からフランス人の神父が来られたのです。私はつづり京都見物であろうと思つていました。それで、お茶などを出して接待していると、その神父は一枚の書類を見せ、カスティニ工司教様の書類を整理していたらこ

この話もとんだ濡衣だったのですが、河原町教会の伝道館をバーレー教室に貸したときのことです。子どもの健康にも良いからと頼まれ、平日だけ貸すことになりました。ところが、ある人がこのことを東京の教皇使節のところへ手紙で陳情しました。その内容というのが、こともあろうに教会で女の子たちが裸で踊っている。そして、それが外からまる見る見えである、というのです。その内に、私の手許にその手紙が回ってきて、書いた人にいろいろ正すと、その人はバーレーの練習を見たこともなく、他の人から言われてその手紙を書いたとのこと、事情がわかった

（編集部から）

●時報復刊以来編集部を育てて下さったS.R.O.に多謝。今後とも声援、助言を仙台のニュースに添えて送つて下さい。（Y）

●春を追つかけるようにして桜前線も北上します。弁当を持って出かけますか。 静かな溪流ぞいの山桜を見に。（ア）

●神の国は大人が幼児になる事でなく、幼児の様になる事による。児童年。彼等に何かをしてあげるのでなく、教えていたゞく事もなければ。良き師幼児よ。（M）

るまで待つてもうことにしました。結局何分の一かを返しただけで負けでもらいました。今から思うと、呑気な話です。次の話は、私が今までに一度だけ裁判の被告になつたときの話です。ある教会の幼稚園で事故があり、賠償問題で裁判となつたわけです。それで、ある日私宛てに裁判所から通知が来て、「被告古屋義之、〇月〇日に出頭せよ」と書いてある

ではありませんか。実はそのときまで、そんな事故があつたことも知らなかつたので、驚いたなどといつたものではありません。さつそく教会に問い合わせて事情を聞き、裁判もそれほどもめることなく解決しました。それにしても被告何々と活字になつたものをもらうのは、気持ち悪いものです。

この話もとんだ濡衣だったのですが、満月はあくる朝、欠けたま、沈んでしまつた。まんまるのお月様をもう一度返してほしい。

●編集会議を終えた頃に東山の満月あります。沈丁花のかおりが春を運んでくれました。髪を短く切りましょうか。

●沈丁花のかおりが春を運んでくれました。髪を短く切りましょうか。



時報が対話
おう「書く
の手段なら
は「互いに
者も読む者
も、投稿者
も編集者も。
心を開けあ

つづく

(題字も古屋司教)

復刊以来のスタッフであつたS.R.O.小川が修道会の都合で仙台に移られます。長い間ありがとうございました。また、新しく「I」と飯尾悦子さん(大津教会)が、スタッフとし活躍していただくことになりました。どうぞよろしく。

芽

生え

(三)

—京都教区五十年を振り返って

右屋義元

京都の教会建設に、モルガンお雪が関係していると言えば、驚く人もあるでしょう。もしかして若い人たちとは、モルガ

ンお雪の名前も知らないかもしれません

が。彼女は京都の人で、明治の頃にアメリカの財閥の御曹子モルガン氏に見初められ、結婚した人です。当時すいぶん話題となり、アメリカへ発つ日彼女を一目見ようと、京都駅はすごい人出だつたとのことです。

このモルガンお雪さんが、夫の死後、年老いてから京都に帰つてきました。最初はアメリカから生活費が送られていたのですが、太平洋戦争のためにそれも跡絶えてしましました。そのような苦しい生活が続いているとき、彼女を助けたのがマキロップ神父様でした。神父様はモルガンさんから返済してもらうことなど考えず、お金を貸しておられました。その内、彼女は神父様の暖い好意にも心を動かされたのでしょ、洗礼を受けました。

ところが、昭和29年にモルガンさんは夫の遺産を受け取ることができるようになりました。それで、今までお世話を寄つたお札にと、多額のお金を教区に寄付してくれました。そして、そのお金元

に衣笠教会が建てられたのです。

衣笠教会の話が出てきたので、その裏手にあるカルメル会の修道院や聖要会のことも触れてみましょう。

あの一带は、元々ヴィアトール会が学校を建てる予定で購入した土地だつたのです。しかし、グラントを作るのも適当でないということもあり、結局学校は今の白梅町にできました。それで、その



モルガンお雪

さんのお墓がカルメル会の墓地の中に入ります。もちろん、こんなことは例外で、あそこにモルガンお雪のお墓があることは、余り知られていないことです。

教区の墓地にも、ちょっとしたエビソードがあります。今では、ほとんど火葬ですが、当時はまだ土葬が多いものでした。それで、土葬の許可を取りに行くと

海拔三百米以上でないといけないとのことです。ところが、あの辺りで三百米以上の所は坂の上だけでした。当初は、その坂もならして墓地にする予定だつたの

ですが、土葬のためにそのまま使うようになつたのです。

聖要会は、初め河原町、三条にあり、教会も以前の建物で、前の方は骨だつたのですが、子どもたちもよくお祈りに来ていました。それが、今のところへ移つた

のですが、カルメル会が自分たちの使っていい土地を心良く譲つてくれました。本当に欲のない人たちです。

最後に、三重県に老人ホームができたときのことを話します。

この施設に尽力されたのは、スタン

ベック神父様ですが、土地を搜しておらぬ時のことです。或るおばあさんが、東の方にマリア様が教えて下さった土地がある、と言うのです。そして、本当に必要な分だけを取つて、残りの土地は置いておかされました。それを今度は、教区

が墓地のために使うようになったのです。

先にお話したモルガンさんは、このカルメル会のために協力して下さり、修道院に入つて生活したいという希望すら持つていました。そのため、モルガン



時報が対話
おう書く
の手段なら
者も読む者
とも「互いに
は、「互いに
心を開けあ
も編集者も。

◆あなたは、黄昏が好きですか。それとも、日暮、夕暮ですか。夕方なんてもあります。どちらにしても、西、紫、黒色が実にあざやかです。これから夏に向つて夕焼もはりきります(亜)

◆柄にもなく観葉植物育てに凝るこの頃、朝な夕な鉢を眺めて悦に入っています。天地を創造なさつた御父のお心がわかるような気がします。葵祭りも過ぎて緑深い。それにしても一寸薄寒い二三日(Y)

◆聖心の思いは、何んて書いたら、ぎくつとする方もおありかも、誰が之を書いたかとわかれれば吹き出す人も?そやけどイエズスさんに、あんた好きやと云つてもらえたらどんなによろしいか(M-T)

◆奈良から大津に移つてはや二ヶ月。近江富士がはるかに見え、比叡山、比良の山並みが雨に洗われて一段と美しい。こんなに自然をいつくしんで下さつている天の御父に贊美。

(1)

◆雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ散髪屋サンノ説得ニモ家族會議ノ要求ニモ負ケズ頭髪ヲ短カクシタコロ行ク先々デイタクモナイ腹ヲサグラレテイマス。ソナニタイソウナコトデショウカネ(き)

芽

生え

え

(三)

—京都教区五十年をふり返って

古屋義元

教会建設には、それはいろんなエピソードがあります。例えば、前回お話しした衣笠教会でも、泥棒にまつわる愉快な話が残っています。衣笠教会は土地だけは戦前からあつたのですが、終戦後は管理のために烟にしていました。ところが食糧難の時代ですから、作物を盗んでいく人もあるわけです。それで、信者の人たちが小屋を立てて見張っていました。反対に近所の人から泥棒がひそんでいるように勘違いされたそうです。

西陣の土地購入の時には、現在の場所以外にも候補がありました。それは烏丸今出川の通りに面した土地で、私は少々狭くともこちらの方が良いように思っていました。しかし結局は、同じ金額で今出川の方を買つたのです。この教会と河原町教会とを往復して、私が孤軍奮闘していた時代の事は以前話しました。

伏見教会も最初は丹波橋に土地を買つたのですが、そこまで道路が通じていなかつたので聖堂を建てるまでに至りませんでした。そこで、聖母女学院のために充取した土地の一角に、教会ができることになつたのです。後にこの小教区の活動を補うために、桃山教会ができました。

京都市内の教会建設で一番の大工事は、

やはり河原町教会の改築でしょう。今でこそ河原町は京都一の繁華街ですが、教会が明治二十年代に土地を手に入れた時には、ずいぶん寂しい所だったそうです。話が決まるまでは様々な経緯があります。話が決まるまでは様々な経緯があります。話が決まるまでは様々な経緯があります。



河原町教会 旧聖堂

当初、ホテルの建物を旧聖堂の奥に建てることになつていたのですが、旧聖堂が工事に耐えられそうがないことがわかりました。そこで、それを壊して建て直し、ホテルを現在のように通りに面して建設することになったのです。しかし、

京都の建築家の人たちから、旧聖堂を壊すのは惜しいとの声があがりました。それを一挙に解決したのが、明治村移転の話でした。それで建物だけではなく、私の中の椅子などもそつくり寄付しました。ですから、今でも明治村に行くと聖フランシスコ・ザビエル聖堂が、教会の雰囲気を保つまま残されています。

現在の聖堂は、大きさは昔と全く同じ

です。建設の費用は、全て向うが持つことになつていました。でも、ステンドグラスやバイオルガンの代金は、教会もも、経済的基盤を築かなくては、と助言して下さいました。

そんなとき、最初に出た案として、音楽堂を造るというのがありました。私も

改革のきっかけとして、そのひとつに財政の問題がありました。教区の邦人司祭も増え、皆んな霞を食べて生活しているわけではありません。ウイツチ神父様も、経済的基盤を築かなくては、と助言して下さいました。

京都市内の教会建設で一番の大工事は、

応しいし、文化の面で地域にもいくらか貢献できると考えていました。ところがどうしても金銭面で採算がとれそうにならぬので、この案は流れました。京都でこのような事業が成り立っていくのは、まだ難しいようです。そこで代りの案として出たのが、ホテル建設だつたのです。話が決まるまでは様々な経緯がありましたが、結局、経済的な面もこちら心配がないだろうとのことで決定しました。

当初、ホテルの建物を旧聖堂の奥に建てることになつていたのですが、旧聖堂が工事に耐えられそうがないことがわかりました。そこで、それを壊して建て直し、ホテルを現在のように通りに面して建設することになったのです。しかし、

【朝顔にお株とられたスカイラブ】読人不知。計算づくで咲かせたり、落したり、正面出来る人は羨しい。こちら遅ればばなし

【線香花火になにを見ますか。青春時代秘かな思いを燃焼させ、いつの頃からか人生に移しかえてみる。八月とは、そのようなものを供養する月でもあるようになります。】(Y)

【むかしむかし、おじいさんが子どもこのころには、夜空には星がいっぱいあります。それはきれいなもんだつたよ】

『満天の星』『星降る夜』をいつから経験していないのでしょうか。それらの言葉がすでに死語のようにすら思えます(涙)

時報が対話
の手段なら
おう書く
者も読む者
ば「互いに
も、投稿者
も編集者も」
心を開けあ

(題字も古屋司教)

つづく

本紙を福音宣教にお役立て下さい。

芽

生え

(西)



—京都教区五十年をふり返って

古屋義之

京都教区がここまで発展してきた一つの力として、外人宣教師の働きをあげることができるでしょう。それは、今までお話ししてきたメリノール会だけではありません。

例えば、京都北部における宣教は、レデンプトール会の尽力によるものです。この地域は私が教区長になつてからも大阪教区の一部でした。それは軍港があつたこともあり、メリノール会が司牧することができなかつたからです。それで、レデンプトール会が担当し、現在のように各地に教会をつくつてくださいました。ただ、明治時代からこの地で一粒の種を蒔かれたルラープ神父様（パリ・ミッショニン会）の働きが、礎となつたことも忘れてはなりません。

村全体が改宗した佐賀村には、こんな経緯があります。私が、高木国敬さんといいう小児科医に要理を教えていた時のことです。彼の出身地である報恩寺からまたま高橋という人が来ており、私の話を聞いて大いに感激していました。それで村へ帰つてから、その人がカトリックを大宣伝してくれたのです。私にもぜひ村へ来てごミサをしてほしいと頼まれ、出かけました。ところが、着いてみて驚きました。ところが、着いてみて驚



現在のように多くの教会ができるまでには、数多くの苦労があつたと思います。

昭和三十一年、マリスト会管区長マースティ神父様の招待でオーストラリアへ行きました。向こうでは、ずいぶん歓迎され、ペラペラとはいかない英語に身ぶり手ぶりを交えてお説教したことありました。またジブシーが占つてくれたこともありました。またジブシーが占つてくれたことはありました。こちらは半分も意味がわからなかったので、どんな恐ろしい

つづく

ことを云われても平氣でした。
オーストラリアに滞在している間、私はセント・パトリック教区の教会の一室を貸していました。この部屋には怪談じきました。小学校が会場だったのですが、その入口にアーチが設けられ、そこに書いてある文字が、なんと「迎神祭」だつたのです。誰が考えついたのか、ともかく返す言葉もありませんでした。

さて、奈良地区はマリスト会が受け持つてくださいました。最初は、教育事業をお願いするつもりですが、奈良全体の司牧をまかせました。この地区にも一つしか教会がなかつたのですから、離れたご兄弟の家で寝泊りしていました。

それで向こうでの滞在を終え、帰る日の話です。私は信者たちからもつたのです。誰が考えついたのか、ともかく返す言葉もありませんでした。

さて、奈良地区はマリスト会が受け持つてくださいました。最初は、教育事業をお願いするつもりですが、奈良全体の司牧をまかせました。この地区にも一つしか教会がなかつたのですから、

P・Y・Fとイニシャルの入つた革のトランクなどの土産物（このトランクはこの夏の巡礼の時も持つていきました）を持ち、飛行機で帰途につきました。ところが、エンジンの故障で一時間もせぬ内に引き返すことになりました。もうその日は飛び立てないということで、ホテルを手配してくれました。しかし、窓から眺めると、私が宿舎にしていた教会が目の前にあります。私はそれならもう一晩教会に泊めてもらおうとそこへ戻りました。

た。カギのありかもわかつていましたから、勝手に入つて寝たわけです。ところが夜中になつて足音が聞え、誰かその部屋に入つてきます。見ると、マースティ神父様なのですが、私への接待疲れをどうかでいやしておられたのでしょうか。

うご兄弟の家まで帰るのが面倒で、その部屋でお休みになるつもりでいらしたのい刺身で辛口の地酒をやり、何も考えず、くしゃみを二つ三つして、そして寝る。ああ、怠け者に戻りたい。

(I)

■温泉へつかり、好きな本を読み、うま

本紙を福音宣教に役立たせるため、ご近所、お友だちにもお見せ下さい。

時報が対話の手段なら、者も読む者ば「互いにも、投稿者も、心を開けあも編集者も。

■母親の小学生に対する小言や命令は、平均して四分に一度の割合でふるそうですね。（き）

■天も物価も負けず劣らず高い秋。馬ばかり肥やすすに自分の内にあるものも豊かにしたいと思つております。ハイ、イエズス様。いや外の方はしつかり大きくなっていますのでご容赦を。身を軽くして嵯峨野辺りを散歩したいです（Y）

■もうそろ／＼秋の気配が見えて来た。秋のすがすがしさを愛でる人と、物淋しさを憶える人、物のあわれを感じる人、などなく氣をとる、あわれ人の心よ（M）

■向いにすわったおばあさんの顔に深く刻まれたしわ。昔々の衷心のこと、楽しことの軌跡。イエズスのしわは、微笑と苦惱のもの。どちらもやさしさのあらわれだなアと思い巡らせてると、電車は梅田駅に着いた。

（ア）

芽

生え

(最終回)

右座義文

—京都教区五十年を振り返って

前回、オーストラリア訪問の話をしましたが、今回はメリノール会の招待でアメリカへ行った話をします。

昭和二十七年、私はミュレット師やブラザーの帰国と共に、飛行機でアメリカへ向かいました。途中、ハワイで何日か滞在しましたが、「日本のビショップ」に対する歓迎ぶりは、戦争のしきりなど感じさせないものでした。市長まで私を出迎え、ハワイ中自由にご覧になつてくださいと、木の大きな建物を贈ってくれました。

アメリカへ行つて何に驚いたと尋ねられたら、道路が整備されていることと、アイスクリームの美味しさだったと冗談半分に答えたものでした。今でこそ日本もハイウェーが多くなりましたが、当時はやはりびっくりさせられました。

向こうで新聞社に取材されて、大きく報道された出来事があります。それは、終戦後、伏見の電信隊にリールドン大尉という方がおられ、いろいろ親切にしてくれました。ところが、彼は帰国後、交通事故で亡くなりました。私はそれを聞いていたので、彼の故郷であるシンシナティへ墓参りに行きました。それが新聞に「日本の司教が墓参に来た」と、写

真入りで報じられたのです。そのため大袈裟なことになつてしまい、レセプションまで行われました。その騒ぎはセントルイスへ行つたときも飛火して、そこでも新聞社の取材を受けました。

ところで、私のアメリカ滞在がいつもこんな大騒ぎの内に過ぎていつたのではありません。私の訪米の目的として、日本に来てくださっている神父様方の家庭



そうして宣教師の家庭を訪問して痛感したことは、どの家族も本当に熱心な信仰を持っていること。そして、家族の皆さんの大好きな犠牲と祈りによって、一人の宣教師がささえられていることでした。神父様本人は殉教覚悟で宣教地へ赴かれるのでしようが、家族の方はやはり苦労がそこでも少なければ願つておられるのが、ひしひしと感じられました。

メリノール会本部に行つたときには、ちょうどそのミッショナーたちの出發式がありました。そこには、世界の果まで

キリストの精神を伝えに行こうとする熱意がみなぎっていました。そして、この情熱が京都の地でも種を蒔き、苗を育てていく力となつたのではないか。京都教区の五十年をかりかえたときにも、私一人ではどうすることもできな

い仕事を、神のお恵みとこのミッショナリーを含めた多くの方々の協力によつてここまで進めることができたと思います。

そして、これから日本の教会は自活していく力となつたのではありますか。

いかねばならないでしょう。それが、宣教会へのご恩返しになるでしょうし、神への感謝の表われになるのではないでしょうか。

終



時報が対話の手段ならおう書く者も読む者は互いにばは互いにも編集者も心を開けあ

◆後なる人は先になり、先なる人は後になる。聖書の言葉よろしく奥床しい編集子諸氏いつも後から。でも今は別。最初者が先に書く。託身のイエズスよ。

これはあなたの気召すか。但し、單純に従う事も、あなたの御心かも。(M.T.)

◆子どもの頃、祖母が鏡がくもつてゐる心がくもつてゐるからといつて、いつも鏡をビカビカに磨いていました。クリスマスにふさわしい、心の準備にとりかかるなければと思つていますが:(I)

◆先頃Mrハッスルこと(き)は足に負傷。ウォーカソンにもならず残念がることさき。画期的な80年代はお互い元気に、更に「開心」、復刊時の初心を忘れずに頑張りたいですね。

(Y)

◆陽だまり、芝生、文庫本。これだけあれば、ボクの一日は足るはずなのに。ふたたび、ああ急げ者に戻りたい。(亜)

◆一ヶ月間、病院で明け暮れた。退院してみると、世界中が新鮮で生氣にあふれているようだ。「芽ばえ」終了とともに時報も変わらうとしている。(き)

なあ、次号からは「諸宗教との対話」をシリーズでお送りする計画です。

編集部

本紙を福音宣教に役立たせるため、ご近所、お友だちにもお見せ下さい。